



ともに新しい岩手をつくりましょう！

ごあいさつ

今期の任期も半年を切りました。私の活動にご理解とご支援を頂いておりますことに心から感謝申し上げます。

コロナ禍が3年にも及び私たちの暮らしに大きな影響を与えています。加えて加速的に進んでいる人口減少は、特に地方の経済やコミュニティへの影響は顕著なものがあります。

私は、私自身の政治課題であるILCの実現をはじめ、常に10年先20年先を見据えた政策提案を引き続き行なって来ました。人口減は大きく歯止めをかけることは困難ですが、今こそ岩手の潜在力を生かす新たな視点に立った政策を発動する機会であり、この機を逸してはならないと痛感しています。

また、ポストコロナの時代はむしろ今より社会や経済構造に変化が来ると考えられます。私はこの変革の時代に皆さまから頂戴した経験値を活かし、岩手県や両磐地方が前に進めるよう今年9月に行われる県議会選挙に立候補することを決意致しました。これまで県議会では県政の品質管理を行う急先鋒としての自負を持ち活動してまいりましたが、次期こそ新しい知事のもとに『新しい岩手』をつくり、創造者の一員として活動していきたいとの決意です。

なにとぞどうぞよろしくお願い致します。

岩手県議会議員 飯澤 匡

HOT NEWS

2023年2月26日 飯沢ただしのブログ記事より

2月22日の県議会代表質問の場で新笹ノ田トンネル建設について県は新しく整備する必要性を初めて公式の場で述べ、技術的な問題について検討する会議を設置するという方針を明らかにしました。

今まで県当局は予算と事業効果を持ち出して慎重な姿勢を貫いてきましたが、新たな方針はあらゆる機会（代表質問・一般質問・決算、予算特別委員会）を通じて一回も欠かさず新トンネルの必要性を訴えてきた私にとって悲願の課題解決の第一歩を踏み出すこととなりました。私が所属している「いわて県民クラブ」でも毎年県への政策提言に具体的項目として要望していました。

当局に確認したところ過去に国道106号線の整備において専門会議を設置して整備を図った例があり、それに

作った形となる見込みです。今後の展開が注目されます。

一方、まだ調査費も計上されていない現時点での状況を冷静に分析すると、今後最も重要な予算の確保や工法など技術的課題についてはまさにこれから国とのタフな協議が待ち受けており、県の継続的な力が試されることとなります。

新笹ノ田トンネル建設に関しては沿線自治体で構成される期成同盟会が結成され、9万筆にも及ぶ署名も集められています。国道343号整備の延長上ではなく新トンネル建設に特化した期成同盟会の結成は稀であり、この間にひとかたならぬ情熱を注いでこられた関係者、先人にあらためて敬意を捧げたいと思います。

私はこれからもしっかりと進捗管理を行ってまいります。

新笹ノ田トンネル（関）陸前高田「検討」
県方針、年度内に会議設置
県議会本会議

県議会2月定例会は22日と陸前高田を結ぶ国道「菅野氏が取り上げた。県本会議を再開し、菅野343号の笹ノ田峠のトンネルについて、新しく整備や防災に詳しい学識経験者友一（自民党）、工藤大輔（いわて新政治）の3氏が討議する会議を年度内に設置する方針を示した。県は、一関する方針を示した。えた技術課題などについて

2月23日 岩手日報朝刊4面より

飯沢ただし 後援会報

六期目の実績(自己評価)について

達増県政四期目となりましたが、政策立案の甘さ、実行力の低さ、県内市町村との意思の疎通の劣化が著しくなり、議会では先頭に立って是正措置を迫りました。

コロナ感染症の影響により議会活動はコロナ対応が中心となった。その中で他の議員が躊躇するような指摘と是正を県当局に行った。主な論点は以下の通り

- 1) 盛岡市中心の飲食店への協力金支給に対し疑義を呈し、是正勧告
- 2) 「いわて旅応援プロジェクト」の用途拡大と予算獲得について
- 3) 市町村との連絡協議の場の設置について

ILCの実現に向けて情報収集に努め県の対応(知事)について厳しく追及

議事録を
ご覧ください

地元課題について調整を図り実現したもの

- 1) 国道343号渋民工区の完成、道の駅実現に向けて県と一関市との調整続行中
- 2) 千厩警察署藤沢駐在所の立地について地域住民と市側との調整を図り、住民が希望する箇所に立地を決定
- 3) 砂鉄川、千厩川の整備促進(迅速な河道掘削、河川整備事業の推進)
- 4) 圃場整備事業と県道整備との一体化事業の推進(大東町大原藤ヶ崎地区など)
- 5) 一関工業高校の将来に関して議論の正常化を図る(当初、一関市と県教委で対立構図があり、正常化に導く)
- 6) 摺沢地区こども園整備事業について旧保健所跡地用地取得をはじめ推進を図った
- 7) 一関市道五十人町1号線の交通規制について地域住民と県警との調整を図り、住民が要望していた導線を確認

※新笹ノ田トンネルの実現に向けて強力にあらゆる発言の場を通じて早期実現を要請中



藤沢駐在所



五十人町1号線交通標識

議員定数の見直し議論に議会内で改革論をリード

積極的に選挙区見直し論をリードし、実現に結びつける

令和4年9月定例会 総括質疑

ILC実現について達増知事の活動を追及

●飯澤匡委員 御自身の活動によって倍増になったというようなお話がありましたけれども。

河北新報社が県内首長を対象に行ったアンケート回答率33分の24、72.3%によると、ILCに関して評価していない3、余り評価していない10、24分の13、54.2%が評価しないという結果になっています。これとは別に、国との連携については75%が評価しないと、かなり高い率でそういう評価を得ています。

その書き込みの中で、国との関係が良好でないように見え、
知事の行動によって、県職員が各省庁との連携がとりやすいよう配慮すべきではないか、
知事がみずから国に働きかけるなどのリーダーシップが見えない、
このように評価しているわけです。

私は、このILCというのは、東北地方の歴史の中にあっても、12世紀ですか、平泉が滅ぼされて以来の大きな出来事だと捉えております。知事は、これを実現したいという思いがどれだけありますか。自分自身の言葉で表現していただきたいと思っております。

●達増知事 これは、実現以外あり得ないと思っております。

●飯澤匡委員 それにしては、ただいまの知事みずからの行動の中身を見ますと、来県したときに対応するとかという対応がほとんどでしたね。ILC推進局からいただいた資料によっても、令和4年2月14日から9月9日までの行動について、知事の活動が出たのは令和4年6月16日の政府予算提言と要望だけなのです。

実現するだけだと思ったならば、なぜ取り組みをもっと国のほうに働きかけられないか。岩手県はこういう準備をしている。居住環境整備、グリーンILC、その技術を使った二次展開をもっとこうやっていますよということをなぜもっともって訴えられないのか。だから、県内首長からこういうような評価が出ているのではないかと思いますけれども、この点についてはいかがですか。

●達増知事 鈴木財務大臣も含めて、関係する皆さんと調整しながら、その中で、岩手県の動き方、また知事の動き方を調整しながら決めてやっているとありまして、それぞれ関係者の御理解をいただきながら動いていけていると思っております。

●飯澤匡委員 僕は、調整ではだめだと思うのですよ。今の状況だとILCの30キロメートル、ほとんどが岩手県ですね。岩手県は主張する権利があると

思っているのです。だから、岩手県がどんどんアピールをする。知事がもっと人と会って、いろいろな懇談の中でいろいろなヒントをつかんでいく、情報を得る、これが絶対必要だと思うのです。それが足りないから、県内首長からもこういう評価になっている。恐らく知事の受け取り方も、そうなのだと思います。

私は、持論として、首長たる者は自分で扉を開いて、ただの要望だけではなくて、私はこうやってきたから、後に続く職員はこれについてフォローアップしろ、それぐらいやらなければだめだと思いますよ。それは岩手県の知事だから私は許されると思う。だけど、それを期待されるだけでやっていないというのは、非常に残念であり、とても悔しい思いです。私は、何でもやる、タブーなしというのはここで発揮すべきだと思うのです。いかがですか。

●達増知事 繰り返しますけれども、鈴木財務大臣を初め、政府、また国会関係のILC関係の方々や、そして、研究者の皆さんともすり合わせながらやっております、これ以上岩手県知事が突出すべきとか岩手県が目立つべきだということは、そういった方々からは全然いただいていないところであります。

●飯澤匡委員 いただけるほどやったほうがいいのではないですか。私はそう思いますよ。

ILCについては、椎名素夫先生から授かった大事なプロジェクトだと私自身は自分勝手に思っていますので、これは絶対実現しなければいけないと思っていますから、私自身も一生懸命頑張りたいと思います。



質問後の感想：達増知事にはILC推進に関して積極的な行動を求めてきましたが、この答弁を聞いて、ご本人の姿勢が明らかになり誠に残念な気持ちになりました。

千葉じゅんこさんと新しい県政を！

飯沢ただしのブログ記事より

千葉じゅんこさんが知事選立候補表明、私たちの覚悟 2022年12月19日

いわて県民クラブの仲間である(15日に議員辞職)千葉じゅんこさんが来秋行われる岩手県知事選挙に無所属で立候補することを16日(金)に発表しました。



自民党県連といわて県民クラブは昨夏の参議院選挙終了後から断続的に協議を重ね、最終的に千葉じゅんこさんに出馬要請をしたものです。要請を受けて昨日の出馬表明となりました。

達増県政は4期目という長期政権を要因とする政策、人事の固定化。政治的行動の偏り。何より達増知事自身の行動力、発信力の乏しさが県勢発展の今や大きな障害となっていると私たちは判断しています。今こそ新しいリーダー誕生によって局面を一新しなくてはなりません。私自身は達増県政1期目の後半からこのような評価であったことから知事選も積極的にコミットして挑戦を続けてきましたが、残念ながら3回とも大きな壁に跳ね返されてきました。

しかしながら挑戦は続けていかねば岩手は決して良くなりません。

今回は以前の苦い経験を教訓に早い段階から準備を進めてきましたし、前哨戦とらえた全県選挙の参院選も上首尾で結果を出せたという足場を築くことができました。今回の

知事選は自民党県連も公認候補並みの応援、もちろん少数ながらいわて県民クラブも全力でこの闘いに臨みます。



今回の知事選ではしっかりとしたマニフェストを作成し、県民に政策を訴えていきます。

まだ現職の5選出馬表明はありませんが、するものとしてその違いを県民に浸透させていかねばなりません。こちらは挑戦者の立場です。

これから具体的な政策もこのブログで紹介していきますのでぜひご覧を頂きたいと存じます。

千葉じゅんこさんを支援する会が発足 2023年2月12日

今秋に予定されている県知事選挙に立候補を表明している千葉じゅんこさんを支援する組織「新しい岩手をつくる会」が本日設立されました。

メンバーは本会の趣旨に賛同する国会議員・同OB・岩手県議会議員・同OB・岩手県議会議員選挙候補予定者(新人)で構成されます。所属政党にとられない超党派のメンバーが集いました。本日の参加人数は40人超。以前県議会で一緒だった先輩議員も大勢の参加を頂きました。

私は設立発起人の一人として参加。設立総会の議長を仰せつかりました。



規約・役員・知事選の争点・共通公約・設立趣書が慎重審議され、議決されました。

代表には千葉じゅんこさん、会長には工藤勝子さん、幹事長に臼澤勉氏、事務局長にハクセル美穂子さんが選ばれました。実務担当にはじゅんこさんの同世代のフレッシュな人材が投入されました。工藤勝子会長の気合の入ったご挨拶はすばらしかったです。

質疑・意見とも建設的な意見が多く出され、会員の知事選に対する意気込みを強く感じた総会になりました。

今後この会を軸にして、決定された明確な争点を持って活動が展開されていくことになります。



街頭宣伝活動でアピール

飯沢ただし後援会事務所

〒029-0523 岩手県一関市大東町摺沢字街道下3-22

TEL 0191(71)1199 FAX 0191(75)4112

E-mail iizawa-tadashi@lily.ocn.ne.jp

ブログ <http://iizawa-tadashi.seesaa.net/>



ブログ



同級生が描いてくれたイラストです。